

2024年8月22日 開催

ジョンソン株式会社助成
移動型交流カフェプロジェクト活動報告会



2024/08/22 開催

当日の流れ

- 1 ごあいさつ (よこはまユース)
- 2 移動型交流カフェ 活動報告
- 3 テーマトーク
- 4 質問・感想タイム
- 5 企業・コメンテーターからのコメント

よこはまユースが目指すもの

横浜の未来を担う青少年を
企業・団体・地域力で応援するしくみづくりの構築

企業・
行政



よこはま
ユース



活動者・
団体



青少年

プロジェクトのきっかけ

1 校内カフェを運営している中でのもどかしさ

よこはまユースでは横浜市内の高校で
高校生が先生でも保護者でもない大人と出会い、
交流・相談・体験などができる場として「校内居場所カフェ」を運営しているが、
2月中旬～4月上旬の春休み時期は授業がなく校内で会うことができない。

➡ **進級・入学・卒業など変化の大きい時期が心配...**

プロジェクトのきっかけ

2 若者と一緒に居場所づくりをしたい！

横浜市内で青少年や地域のための事業を立ち上げて活動している若者と出会う。
出会った団体どうしがつながって一緒に自由な場づくりやイベントをやってみたい！
若者たちの活動を応援したい！と思っても財源がないのが課題...

そこにジョンソンさんから
助成をいただくことができ...

若者団体4団体と連携した
「移動型交流カフェ」が実現しました！

プロジェクト メンバー

奥村春香



第3の家族

瀧脇 信



からいそBOX



見谷優唯 高貝紗希 菅野翔太



須釜 杏菜



横山 桜

CanVas

新美 志織



半田 地寛



一畳建築

山中 梓



よこはまユース



各団体の紹介

第3の家族

第3の家族

名称	特定非営利活動法人第3の家族
設立	2023年3月（活動開始2021年3月）
所在地	神奈川県横浜市（さくらWORKS）

活動場所	全国・横浜・渋谷
スタッフ	20人（代表フルタイム、業務委託6人、ボランティア13人）
対象者	中学生～大学生くらいの男女

受賞歴



Forbes JAPAN 30 UNDER 30 「世界を変える30歳未満」
GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD 2022 最優秀賞

助成金



居場所を失った人への
緊急活動応援助成

社会福祉法人中央共同募金会（赤い羽根）

ご支援いただいている企業様



花王株式会社 | SVP東京 | NPO法人ETIC.

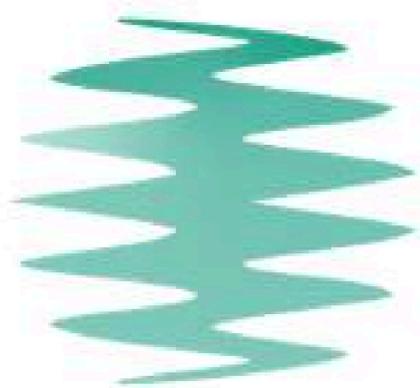
メディア

- NHK おはよう日本 特集（9分）
- テレビ朝日 未来につなぐエール 特集（3分）
- Yahoo! JAPAN SDGs 特集（7000字）
- 日経デザイン, JDNなど

家庭環境問題のはざまの子どもが
自分の居場所を見つけられるように

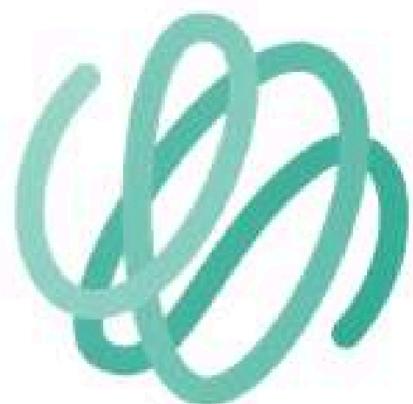


虐待ほどではないはざまの子ども



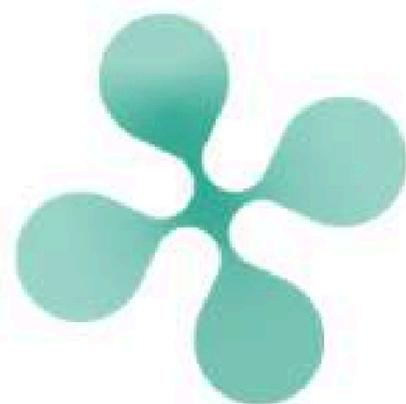
厳しい理想

衣食住は安定しているが、親の教育・職業・結婚などの理想が高すぎる。しつけとの判別がつきにくい、子どもが過剰にストレスを抱えている状態。



過干渉

子どもの心配をしての行動だが、行き過ぎている。GPSの監視・人間関係の制限・年相応ではない門限など。子どもの心が疲弊したり、自己効力感が低下する。



家族の不仲

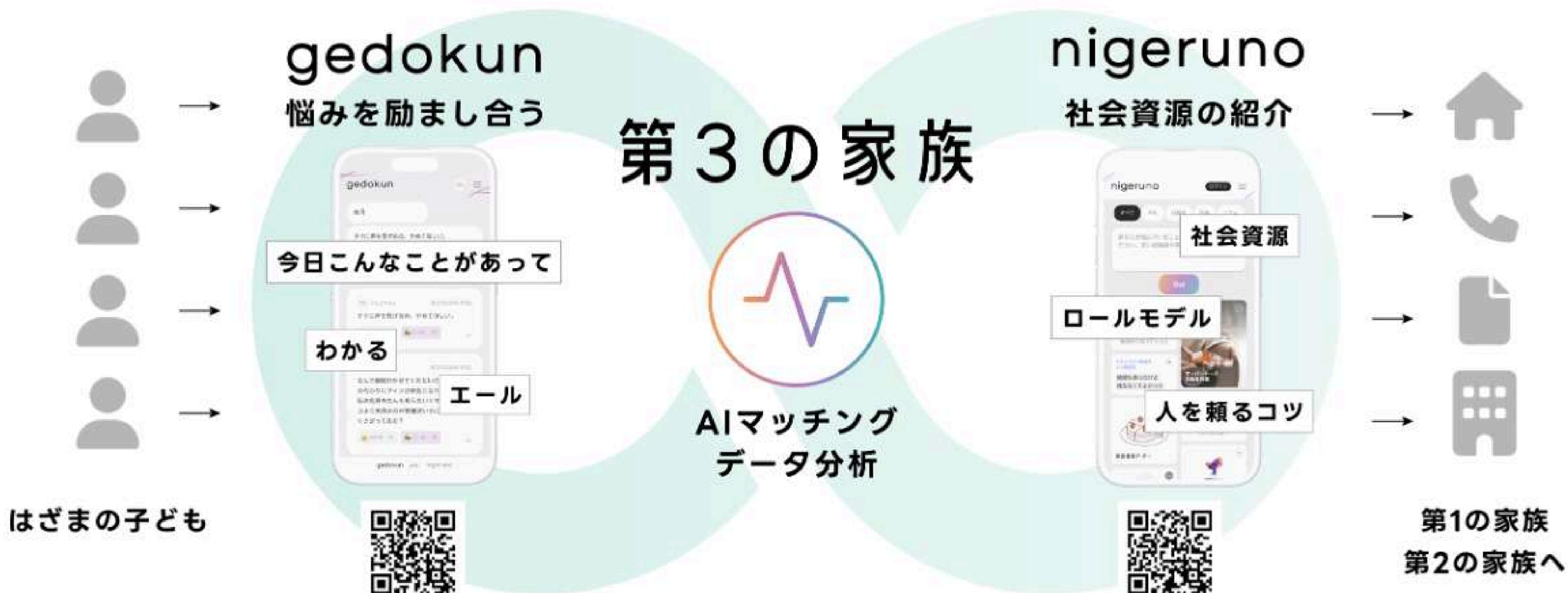
両親の不仲やきょうだいと親の不仲
直接的な被害はなくても、怒号や空気感に疲弊している



無理解

メンタルヘルスやジェンダーなどの無理解
精神科の受診の拒否、性自認をバカにする
そのことを子どもが口にしなければ事象は起きないので程度が小さいとも言えてしまう

はざまの子どもが社会資源につながるプラットフォーム



二畳からはじめる

街で チャレンジしたい人 の手助けをするサービス

二 畳 建 築

建物を建てるハードル



お金が必要



時間が掛かる



管理者が必要



土地が必要

私は建築を学び始めて様々な建物の設計課題を行ってきました。しかし、実際に建設されていった建築はありません。

それは建築が経済的・物理的に大きく、個人の学生には背負いきれるものではないからです。

その大きさは、設計側の私だけではなく、スタートアップや個人にとっても同様に大きすぎます。

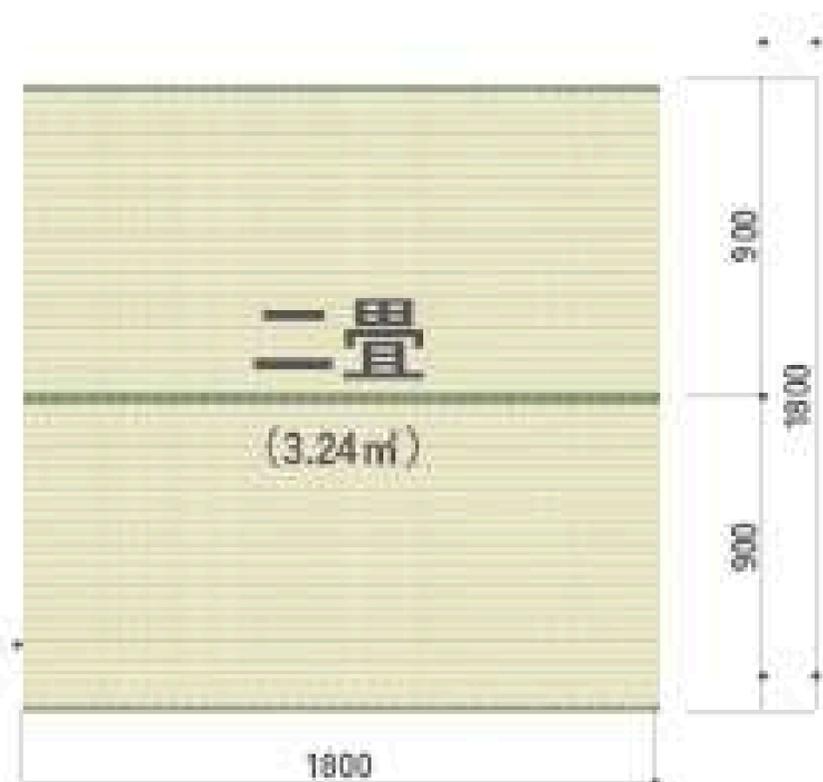
二畳建築とは？

街でチャレンジしたい人の手助けをするサービスです。やりたいことに合わせてカスタムした二畳の空間を、軽トラックの荷台の上に載せることで、あらゆるところに即座にチャレンジを展開することができます。



二畳建築の特徴

01 二畳という最小限であること。



一般的な建築に比べて圧倒的に、設計・施工コストを最小限に抑えることができます。

02 モビリティの荷台の上にあること。



不動産に捕らわれず、移動可能でどこでもチャレンジをすることができます。

シャボン玉KIOSK×二畳建築



タバコを吸う代わりにシャボン玉を吹くと、擬似的にタバココミュニティを楽しめる“シャボン玉KIOSK”という活動をクライアントとして、12月に池袋駅前のマーケットにて、二畳建築の設計・出店を行いました。





CanVas

コンセプト

「寄りどころ×試しどころ」

- 団体概要
- 活動内容
- 参加してみて





CanVas 「寄りどころ×試しどころ」

設立	2023年5月（活動開始 2022年12月）
メンバー人数	10人
主な活動場所	横浜市中区山手、緑区霧が丘、大田区
主な対象者	中学生・高校生（15歳～18歳に相当する年齢） ・大学生・専門学生など
活動実績	●高校生伴走事業 ▼横浜国際高校 ▼品川エトワール女子高校 ▼桐蔭学園
	●女子キャリアデザインプロジェクト ◎横浜市緑区霧ヶ丘地域
	●寄りどころColoCoro ◎横浜市中区山手地域
	●キャリアデザインワーク事業『等身大の私』 ◎東京都大田区六郷





CanVas 「寄りどころ×試しどころ」

事業名	高校生伴走事業
主な活動場所	各高校生が利用可能な範囲で実施。
対象者	高校生
活動内容／背景	3～4か月間、チームでイベントを手掛ける。企画や運営、イベント設計まですべてを伴走。

やりたいこと挑戦の場作り。自分が本当にしたいことを知るための第一歩を。





高校生伴走事業 ▼横浜国際高校
(テーマ：フェアトレードプロジェクト)

伴走期間：2022.12-2023.04 (4~5か月間)
イベント：2023.04.30
会場：泰生ポーチフロント
内容：商品販売・トーク&ワークショップ

伴走内容

一人ひとりの想いを引き出し、
チームの色を最大限に

実施したこと

- ・ミーティングのファシリテーション
- ・スケジュール管理
- ・商品・ゲストスピーカー選定 サポート
- ・広報サポート
- ・当日運営サポート
- ・事後振り返り

一部のチームメンバーは団体設立をし、
現在も関係性は続いており、活動をお互いに応援する仲。





高校生伴走事業 ▼品川エトワール女子高等学校
東日本大震災 研究発表・物販

伴走期間：2023.06-2023.08（3～4か月間）

イベント：2023.08.26

会場：泰生ポーチフロント

内容：研究発表・商品販売



伴走内容

個々の対話を通して、
興味・やりたいを将来につなげる

実施したこと

- ・ 1対1で研究発表サポート
（テーマ・調べ方・内容・スライド・発表etc）
- ・ スケジュール管理
- ・ 商品選定・広報 サポート
- ・ 当日運営サポート
- ・ 事後振り返り



CanVas 「寄りどころ×試しどころ」



事業名	女子キャリアデザインプロジェクト（初回：10月～25年1月）
主な活動場所	横浜市緑区霧ヶ丘地域
対象者	女子中学生、女子高校生
活動内容／背景	定めたテーマについて、4人チームになって、「自己の探求」「他者の探求」「地域の探求」をしていく。プログラム期間は4ヶ月間。

地域探求を通して、女子中高生の自己効力感（自分ならきっとできる大丈夫と思えること）を育む





CanVas 「寄りどころ×試しどころ」

事業名	寄りどころ『ColoCoro』 (時間：毎週火曜日16:00～19:00)
主な活動場所	横浜市中区山手
対象者	中高大生 基本だれでも。
活動内容／背景	地域に根ざし、地域に開けた、いつでもふらっと立ち寄れる居場所。近くに図書館や児童館がない背景から始まりました。放課後家に帰りたくないとき、なんだかもやもやするとき、一人で自習したいとき、進路のことで誰かに相談したいときに。

困ったときのSOSが出せる場や人がいること、それだけで安心。



CanVas 「寄りどころ×試しどころ」



事業名	ライフキャリアデザインサポート事業 『等身大の私』
主な活動場所	東京都大田区六郷地域（会場：(株)アットホーム本社ビル）
対象者	高校生、大学生、専門学校生、など
活動内容／背景	社会で生きる大人たちと出会うことで、自分の将来を見据えて考え、自分と向き合い、生き方や働き方を模索していく。

自分がありたい姿に向かって、言語化したり、違う価値観に触れたり



9/1、9/29、10/13開催。
参加者募集中！





ライフキャリアデザイン
学生×社会人『等身大の私』第1弾

2024年2月25日
at home SQUARE



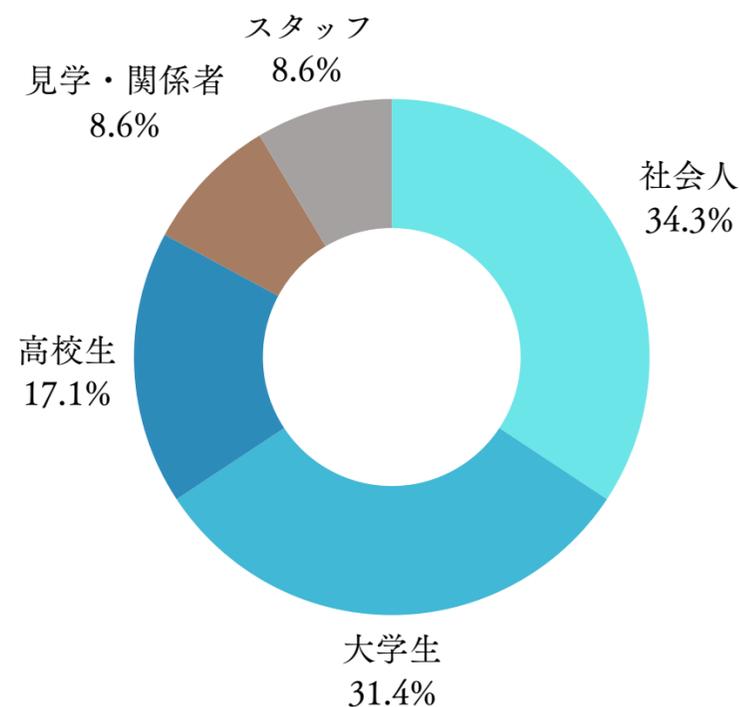
コンセプト

ありのままの大人の姿を見て、
生き方やもやもやを語り合う



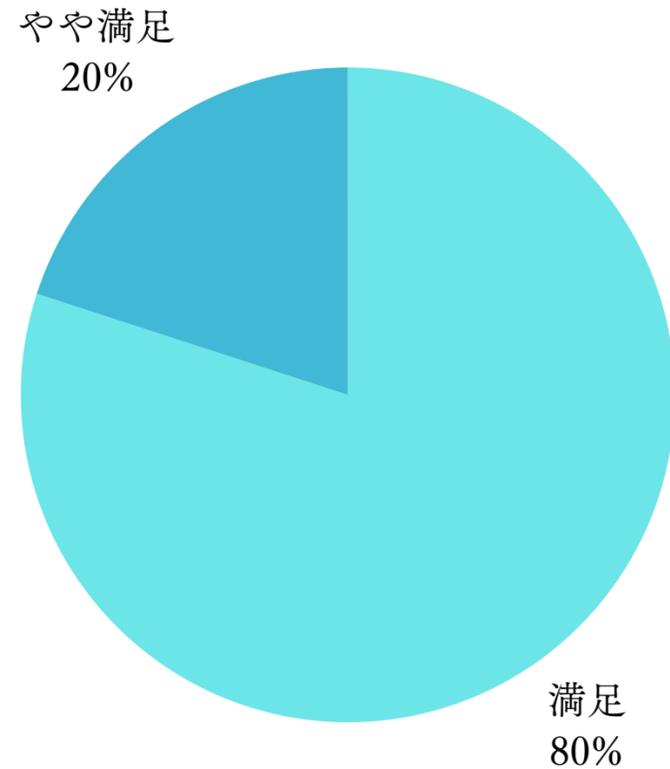
<内容>

パネルディスカッション
グループトーク第1回（50分）
グループトーク第2回（50分）
（社会人の方を入れ替え）

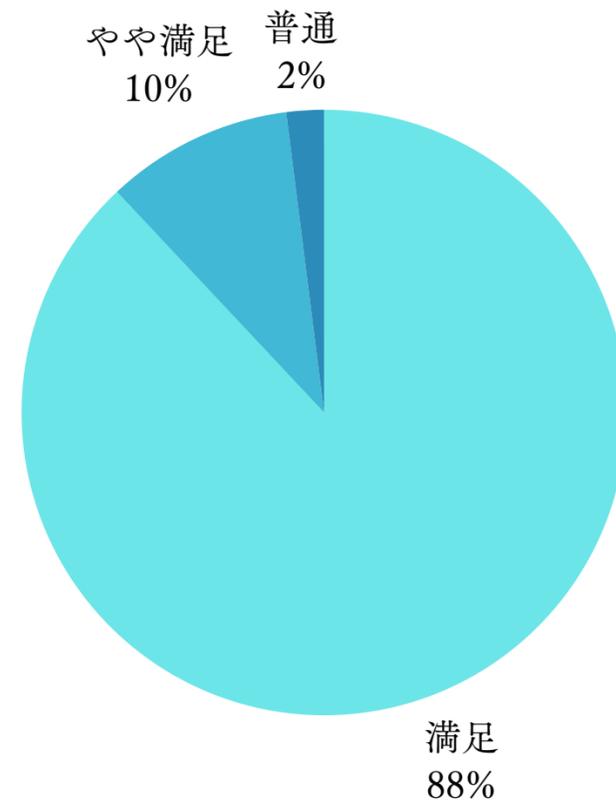




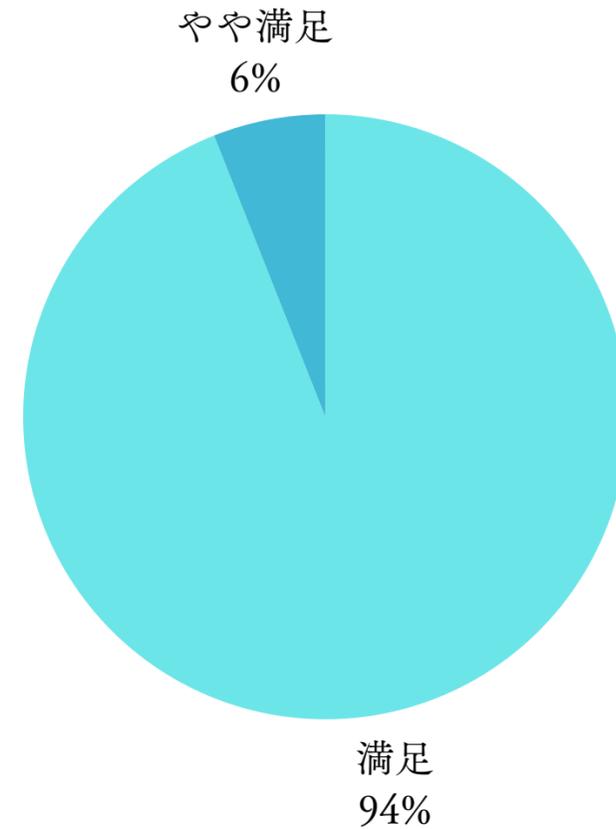
全体満足度



パネルディスカッション満足度



グループトーク満足度



参加者の声

- ・可能性や将来の話をバチバチにできて幸せだった
- ・自分の価値観を深掘りだけでなく、ほかの参加者の方とお互いの気づきを共有できた
- ・自分の将来の不安などを解消や明確にできた
- ・自分のモヤモヤが解決されたり、新たなモヤモヤが発見されたり、刺激的だった
- ・漠然とした将来への言語化する機会になった
- ・言語化したものに対してフィードバックもらえるというのが新鮮だった





一般社団法人からこそBOX

設立 2021年8月
活動拠点 主に横浜関内外エリア
事業 移動式屋台カフェ事業/朝café「この前の続き」

ビジョン

誰もが誰かのきっかけに
～今だ“からこそ”、あなただ“からこそ”～

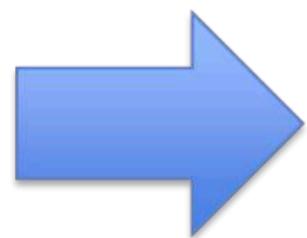


相談窓口だけが相談の入口ではない

若者をはじめとした 地域の多様な生きづらさに寄り添う



- ・心理的障壁の低い相談・ケアの場
- ・地域とつながる、安心できる居場所



- ・日常の気軽な相談・対話がケアとなり予防として必要！
- ・社会的処方の実践のきっかけづくり

多角的なアプローチでひとつの場をつくる

少年少女が
居場所を見つけるための
プラットフォーム

第3の家族

青少年の交流・体験活動支援
校内居場所カフェの展開



若者のための
居場所づくり



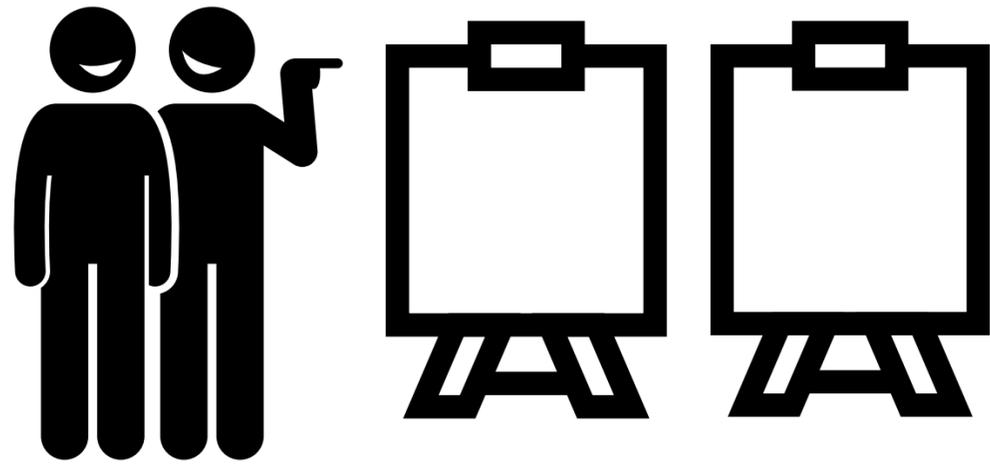
中高生のキャリアデザイン
をサポート



コーヒー屋台・音楽ライブ
街中での居場所づくり

空間を活用し
新しい体験を提供

どんなカフェ？



CanVas



二畳建築

第3の家族

青少年と年齢の近いメンバーが活動する姿を間近で見たり、おしゃべりしたり、気軽に体験にも参加できる



からこそBOX

どんなカフェ？

アート

音楽

福祉や教育の視点から
”支援する”というかたちではなく

デザイン

若者に関心のある

飲食

カルチャーの視点からのアプローチ

建築

のんびり

プロジェクトの目標

- 1 青少年の社会的孤立を防止する
ライフステージ移行期の切れ目のない支援

プロジェクトの目標

2

青少年支援の啓発活動として
社会的孤立予防策・青少年支援策の
モデルケースをつくる

プロジェクトの目標

- 3 次世代の担い手養成として、
若者に社会参加の機会を提供する



活動報告

横浜市立横浜総合高校

2024/01/17



校内カフェをやっている学校で開催。
初対面のスタッフとも、気さくにおしゃべり。

生徒数 1,000人・3部制の定時制高校

学校に行く時間は、自分のために使える時間...
高校生らしく過ごせる時間にほっと一息。



二畳建築、秘密基地みたい！



友達や先生に話しづらい
ちょっとしたモヤモヤも
スタッフのお兄さん・お姉さんが
聴くよ～

ルネサンス高校・ルネ中等部

2024/02/22



eスポーツやプログラミング、
カードゲームやボードゲームに
力を入れている通信制の中学・高校

スクーリングの日を活用して
校内の一室で、授業の合間に
生徒同士や外部の大人との
コミュニケーションを
取れる場をつくりました



生徒同士もはじめまして！
授業のこと、趣味のことで話が弾みました

二畳の空間、
どう使ってみたい？



友達とゲームができるといいなあ

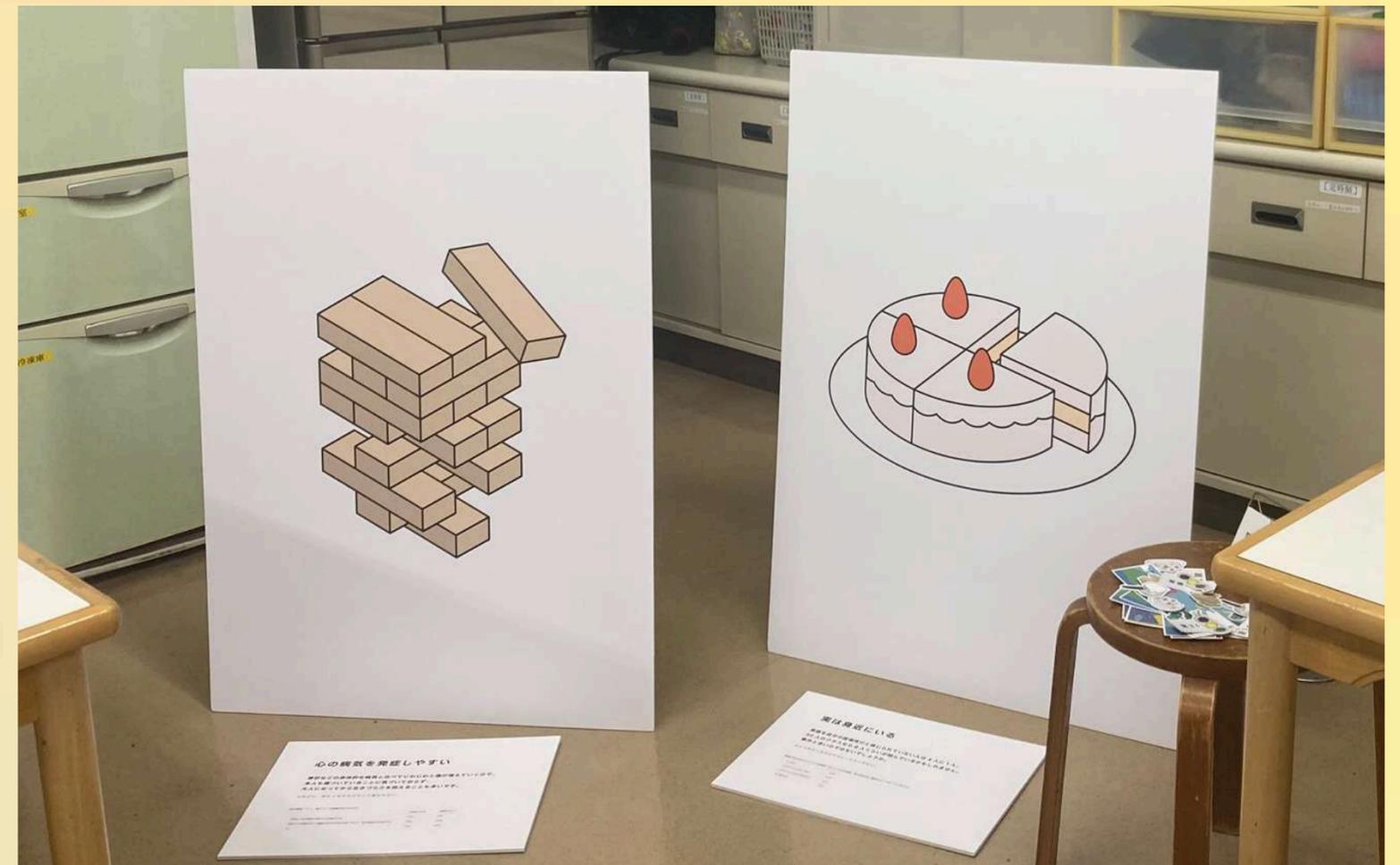
横浜市立戸塚高校定時制

2024/03/22



生徒数 50人・夜間の定時制高校

授業おわりの21時から始まるカフェ。
ごはんやお菓子を食べながら
先生以外の大人とおしゃべり



横浜市立戸塚高校定時制

2024/03/22



コーヒーの師匠から
淹れ方を
教わりました



春をイメージ

横浜市立寛政中学校

2024/05/15



初めての
ブラックコーヒーに
ドキドキ

生徒数 180人の中学校

義務教育の環境で
初めて！カフェを開催。

生徒も少なく、
部活動も少なくなり
「放課後がつまらない」と
感じている中学生に、
学校行事や家庭では
経験できない
小さな体験を届けました

横浜市立寛政中学校

2024/05/15



二畳建築の棚に置いたお菓子もからっぽに...！
普段は校内でお菓子禁止だけど、
今日だけは友達や先生と一緒に食べれて嬉しいね。



CanVasによる
シルクスクリーンの
ワークショップ

青空の下でできるのって新鮮！

イニシャルは
自分の、好きな人の、
推しの...どれにしよう？



横浜駅西口 Niigoひろば

2024/04/06-07

音楽ライブ

コーヒー屋台

横浜の若者が
集まる”ビブ横”で
朝から夜までオープン。

二畳建築 ×
ライブペイント

パネル展示



横浜駅西口 Niigoひろば

2024/04/06-07



音楽ライブの時間には
若者がいっぱい！

部活終わりに、
友達と遊びにきたついでに
ふらっと寄れる、オープンな場所で



横浜駅西口 Niigoひろば

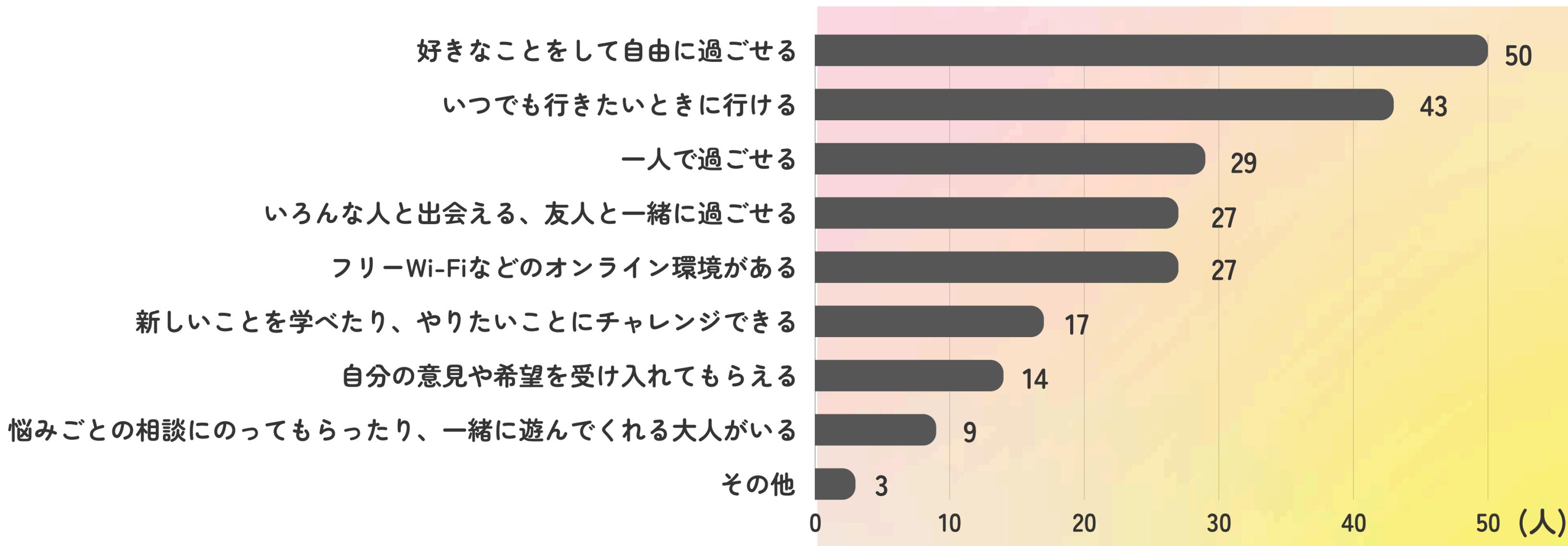
2024/04/06-07

カフェに参加した若者がスタッフに



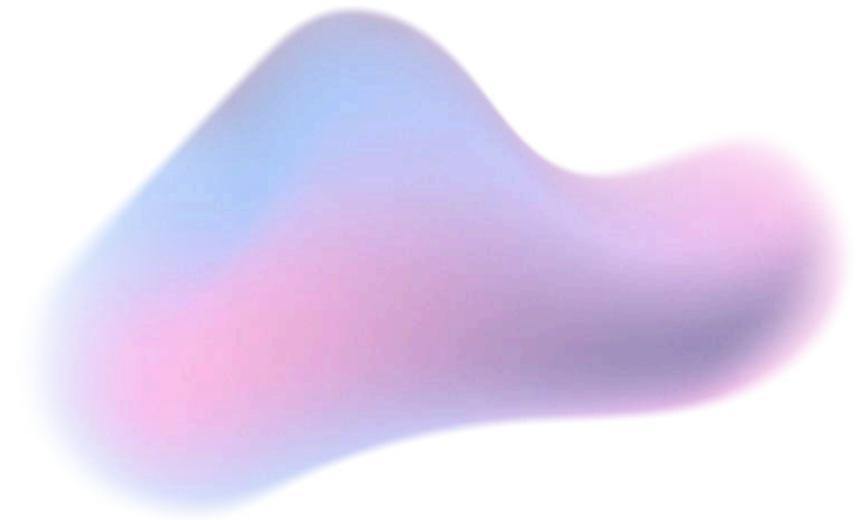
横浜駅で14歳から25歳の若者63人に聞きました

どんな場所があるとうれしい？



その他は「叫べる・同世代(20代)の人と話したい・人目を気にせず座って雨風をしのげる秘密基地」でした

参加した若者の声

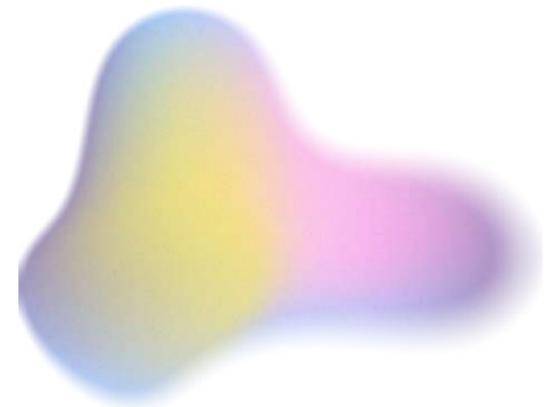


スタッフとゆっくり話ができ、リラックスできた

誰でもふらっと立ち寄れる場所がこれからもあると嬉しい

いろいろな学年の人やスタッフと関わって楽しかった

知らない人と話すのが苦手だったけど、話しやすかった



コーヒーを初めて飲むという体験ができた

など

移動型交流カフェプロジェクトを
実施した学校の声



プロジェクトに
参加してみて

第3の家族

プロジェクトに参加して

- **箱物ではない**学校や街中に居場所を作ることの可能性を感じた
 - 行政が用意する箱物の居場所にはなかなか学生が集まらないという相談をもらうことがある
 - 学校の先生もいるから、いつものお店の前だから、と学生側の参加のハードルが低いように感じた。
- **支援者ではリーチできない子**たちが集まってきた
 - 夜の居場所のとき、女性支援団体も一緒に来てくれていたが、声かけはスルーされてしまったよう。しかし、DJを始めたときに、何人かがこっちに自ら来てくれた。
 - その場に若い人たちが多かったこと、音楽やアートで楽しそうな雰囲気があったこと、開けた場所であったことなどが要因として考えられる。

プロジェクトに参加して



二畳建築

- 自分の欲しい部屋、欲しい居場所を建築を通して引き出すことが出来た
 - 1人になりたい、好きな物に囲まれたい、お祭りのように外に開きたい等々若者の意見を収集し、アイディアの一部を実践することができた。
- 都市の中の自律的で持続可能な仕組みとしての可能性を感じた
 - 土地に定着しないゲリラ的な企画だからこそ、本プロジェクトに親和したと感じた。
 - 簡易性に比例して空間の透明性が高くなり、各団体の活動が外部に対して伝わりやすかった。



**いつもと少し違う、新しい繋がりが生まれ、
一人一人の世界が広がるきっかけになれたのではないか。**

- ・ その場でたまたま居合わせた子たちの会話
- ・ 1人で来ていた子に、他の子が興味を持って「何やってるのー？」と話しかけている場面
- ・ 運営スタッフの人（大人たち）たちと生徒たちの交流や会話
- ・ コーヒーを苦い！と言いながら楽しそうにしていた場面

➡外の人やものに触れることを通して、

学校の中でも外にも、物理的にも気持ち的にも、世界が広がっていたら嬉しい。



- **傷跡のように思い出す経験**

そういえば、コーヒーの淹れ方教わったなあ
あの時の大人はなんであんな場をつくらうと持ったのだろう

- **新しいつながりは新しい世界を**

「大学ってどんな場所？」
「将来はカフェを開きたい」 etc

- **日常のつながりを大切に**

支える人、支えられる人という関係性でない大人/同世代との出会い
世界を広げるきっかけはちょっとした日常の中にもある

- **連携の大切さ**

互いの得手不得手を補うことでより価値あるものを



実現できたこと

1

青少年の日常の延長線上に 社会とつながる場所をつくる

学校や街中など彼らが普段過ごす場所にカフェを展開し
教員でも保護者でもない大人と交流できる機会を設けることで、
居場所のなさや生活上の悩みを抱えた青少年でも話しかけやすく
関わりやすいきっかけをつくることができました

実現できたこと

2 社会的孤立予防・青少年支援の 新しいかたちを若者につくる

青少年がモヤモヤした悩みを抱えているときに相談窓口に足を運ぶことはハードルが高いですが、コーヒーを淹れてもらったり、ワークショップに参加しながらスタッフと他愛ない話や悩み相談ができる場合は、社会的孤立に陥る前に予防的に機能する新たなセーフティネットの一つになりえると考えます

実現できたこと

3 次世代の担い手養成として、 若者に社会参加の機会を提供する

4つの若者団体と協力し、学校や街中で移動型交流カフェを実施。コーヒー、音楽、アート、デザインなど各団体の特性を活かした交流のきっかけや体験機会を中高生に提供し、新たな発見や価値観に触れる機会をつくりました

テーマトーク

若者が若者の居場所をつくる

ファシリテーター

日本福祉大学 両角 達平氏

- どんなふうに若者たちが居場所をつくったの？
- なぜ「若者が若者の居場所をつくる」ことが大事？
- どんな応援があると嬉しい？

応援いただいた企業様より

ジョンソン株式会社 高澤様・藤本様



コメンテーターより

横浜市 政策経営局 共創推進課

共創推進オープンイノベーションコーディネーター

関口 昌幸様

こんな居場所づくりを応援していきたい！

- 学校や地域の置かれている状況や困りごとを把握し、対象となる青少年や場所に応じてハード面・ソフト面を自由にカスタマイズできる居場所づくりを広げる。
- 横浜には活躍している若者がたくさん！
”前例がなくてうまくいかないかもしれないけど、やってみよう”と若者のアイデアや挑戦を応援できる土壌をつくる。
- 生き生きと活動したり、本気で挑戦している若者の姿は目の前の青少年に伝わる。それが青少年に伝播して、「自分もやってみたい」「こんなことができるかも」と思えるきっかけ・場を増やしていく。